

NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア2F)
TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786
e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

NPOと経営

NPOの苦難が続いている。理由はいろいろあって分類することは困難だ。

兵庫県によると2006年11月20日現在で認証したNPO法人は1092団体になっている。そのうち29団体が解散の届けを出している。全体から見れば2.7%であって、企業の閉業率の4%強に比べればびっくりするような数字ではない。それでも「折角志を立てて設立したのに…」と心が痛む。

事業型NPO法人(法人格を取得していると大なり小なり事業を行うのが普通だが)の多くに共通しているのが「営業不振」だろう。もともと「武家の商法」的運営のところが多く、専任の営業責任者がいない。それどころか誰も営業をしない団体が多い。営業をしないということはお客さんが飛び込んでくるのを待っているだけというわけだ。

販促活動をしない、お金がないからPRもできないとあっては事業を軌道に乗せるのは至難の業だ。

助成団体も中間支援組織もどちらかといえば、営業指導は不得手であったり規則上できないところが多い。つまりNPOを経営的に育てる仕組みがどこにもないのだ。兵庫県のコミュニティビジネス離陸応援事業は経営コンサルタントを派遣し、その視点を重視しているのだが、それほど役立っているようでもない。

しみん基金KOBÉの審査会に出席していていつも気になるのはこのことだ。いま助成を申請している団体の理念や計画はそれぞれ素晴らしい。でもいつまでも助成金があるわけではない。各団体が自立し事業が深まり、従事しているメンバーに適切な給与が払えるようにどうしたらなるのだろうかを考えてしまう。

しみん基金KOBÉが本当に市民活動を推進していくには、お金も大事だが、各団体が経営ノウハウを身につけられるプログラムを策定し、自らただちに実践できなくとも、それを提言し当面は行政に資金を用意させて、動き出す主体をつくることから考えていけばどうだろう。

しみん基金KOBÉ 審査員長、ひょうご・まち・くらし研究所常務理事 山口 一史

主な目次

- | | |
|---|---|
| ◆ 平成18年度助成事業のご報告 ----- 2 | ◆ ぼたんの会「1・17メモリアルコンサート
竹下景子「詩の朗読と音楽の夕べ」ご案内 ----- 6 |
| ◆ はぁ〜とふるふぁんど「ボランティアあしすと」
支援事業・募集開始 ----- 4 | ◆ 出口正之氏講演会in神戸 ----- 7 |
| ◆ しみん基金・KOBÉ への主な寄付方法 ----- 5 | ◆ 11年目のひとりごと ----- 8 |
| ◆ 書籍を購入して寄付しよう ----- 5 | ◆ ご寄付をいただいた方々 ----- 8 |

❁ 平成18年度しみん基金・こうべ助成事業のご報告 ❁

平成 18 年 10 月 27 日(金) 神戸市生涯学習センター(コムスタ神戸)にて、しみん基金・こうべ助成事業の公開審査会を行いました。当日は、多数の来場者にお越しいただき、熱意あふれる中身の濃い一日となりました。

審査の結果、次ページ記載の 9 団体(特定枠：3 団体、一般枠：6 団体)の各々の事業に合計 300 万円(特定枠：100 万円、一般枠：200 万円)を助成することが決まりました。

なお、特定枠とは、寄付者の意思を反映させた指定寄付金による助成枠で、平成 18 年度は環境の保全を図ることを目的とする事業を支援したいという分野指定により設定されたものです。



公開審査会までのプロセス

今年度の助成事業は、8 月上旬に応募要項を公表し、8 月 21 日～9 月 8 日の期間に申請受付を行いました。応募総数は 52 件(特定枠 6 件、一般枠 46 件)で、様々な活動分野からご応募いただきました。その後、9 月 20 日の当基金役員運営会議にて書類選考の結果、27 団体(特定枠 4 団体、一般枠 24 団体)の方々に公開審査会でプレゼンテーションを行っていただくことになりました。

その後、9 月下旬から 10 月上旬にかけて、当基金の理事が手分けして各団体の活動場所を訪ね、ヒアリング調査を実施いたしました。各審査員の方々へは、申請書類とヒアリング調査の結果報告を事前にお読みいただいた上で 10 月 27 日の公開審査会に臨んでいただきました。



公開審査会レポート

今年度の公開審査会は、神戸市生涯学習センター 301 号室で午後 1 時から始まりました。会場には、発表される団体の関係者をはじめ、当基金の支援者や関係者、報道関係者や行政担当者など多数の方にご来場いただきました。

各団体の持ち時間は 4 分間で、それぞれ助成してほしい事業内容と助成金の使途などについて発表されました。また、4～5 団体の発表が終わるごとに、審査員との質疑応答を行いました。すべての発表が終わるのに約 3 時間かかり、一旦休憩時間を挟んで午後 4 時過ぎより審査員による選考が始まりました。

選考は、各審査員が持ち票シールを発表団体名が記載されたボード上に貼り付けるという、極めてシンプルで公開された形で行われました。特定枠、一般枠それぞれ 2 度に及ぶ決選投票が行われた末に、助成先が決定されました。

決選投票を 2 度行ったのは、当基金の助成事業史上はじめてで、今回はそれだけ内容が拮抗した難しい選考でした。公開による審査は、発表する側だけでなく審査する側もとても緊張を強いられるもので、その張り詰めた真剣な雰囲気こそが、それぞれの活動を見つめ直し、新しい気付きの契機につながる有意義な時間を作り出すものだと感じることができました。

助成決定団体・事業

区分	番号	団体名	事業名	所在地	助成金額
		事業の目的・社会的必要性(申請書類より抜粋、一部補足)			
特定枠	1	神戸 川と海を考える会	みんなで育てよう!!あまもっち2	神戸市東灘区	¥500,000
		今では近代化と共に姿を消しつつあるアマモを海に移植するという事業を行なうことで、地域の方々に身近な川や海の問題に関心を高めてもらい、基本となる生活排水の見直しをするきっかけをつくっていく。			
	2	社会福祉法人 シティライト	あらたエコフェスタ	神戸市兵庫区	¥350,000
		障がい者の社会参加とエコ活動の推進(リユース・リデュース・リサイクル)をテーマにしたお祭りの開催。地域の多くの老若男女の交流の場ともなり誰もが楽しめる祭りを通じて、地域コミュニティの発展を目指す。			
3		三木自然愛好研究会	環境愛護事業「ふるさと公園フェスティバル」	三木市	¥150,000
		21種を超える絶滅危惧種を有する「ふるさと公園」(三木市増田地区)の重要性を多くの市民や多くの人々に周知、市民の自然財産として市民自らが愛護し、保全活動に参加する。			
一般枠	4	NPO法人 フードバンク関西	余剰食品の有効活用による非営利福祉団体支援事業	尼崎市	¥500,000
		包装破損や賞味期限迫る等の理由で商品として取り扱えないが、食べ物としては美味しく栄養もあり安全な余剰食品を食品関連企業から無償で引き取り、生活弱者を支援する福祉団体に運んで無償提供し、それらの食品を食資源として有効活用すると同時に福祉団体の経営を側面から支援する。			
	5	朗読ボランティアことばの花束	視覚障害の方への「テープ」制作	神戸市中央区	¥170,000
		主に神戸の視覚障害者向けに、新しい身近な施設、地域の情報、街についての案内テープを作る。グループ設立 13年を経て機材も変化し新たに購入の必要に迫られています。			
	6	アジア女性自立プロジェクト	モバイル通信を用いた在住外国人の相談・サポート事業	神戸市長田区	¥390,000
		地域に暮らす外国人住民が地域住民として安心して生活していくための環境づくりが目的。現在、神戸市には 119カ国 44,105人の外国人が生活しており、彼らの社会参加を促す仕組みづくりは緊急の課題である。			
	7	よりみちクラブ運営委員会	よりみちクラブ～学齢期の障害児童に対する休日、長期休暇中の生活支援及び余暇活動支援～	神戸市長田区	¥300,000
		障害児童の学童保育の活動は、障害児が「自分らしく」生きる喜びとつながりを見つかるものであり、保護者からのニーズも多く必要性はあるが、神戸市では制度的に認められておらず継続的に事業を行うのは困難な現状がある。			
	8	未来をひらく・マブイ六甲	企業とNPO法人との協働による障がい者就労支援	神戸市東灘区	¥500,000
	「障害者自立支援法」施行の中で、障がい者の仕事と所得の増進を、地域NPO団体・企業との連携・協働によって行い、障がい者の就労支援を図る。				
9	兵庫県手話サークル連絡会	県サ連「ブロック学習会」	神戸市中央区	¥140,000	
	学習会を開催することにより、聴覚障害者に対する知識と理解を深め、手話技術のレベル向上を目指し、地域の較差をなくし、地域での聴覚障害者福祉の増進に寄与する。				

当日ご出席いただいた審査員の皆さん(順不同・敬称略)

山口 一史	NPO法人 ひょうご・まち・くらし研究所：審査員長	藤井 英映	兵庫県国際交流局
島田 誠	アートサポートセンター神戸	永井 幸寿	トアロード法律事務所
石東 直子	石東・都市環境研究室	古賀 攻	毎日新聞神戸支局
松村 敏明	社会福祉法人えんぴつの家	森崎 清登	近畿タクシー株式会社

草地奨励賞

この賞は、当基金の初代理事であった故 草地賢一氏（阪神大震災地元NGO救援連絡会議代表）の長年にわたる幅広い草の根市民活動の哲学と業績をたたえ、その遺志を継いでいくため、草の根支援の見地から見て意義のある活動を活発に展開されている団体に対し授与されるものです。

この公開審査会でプレゼンテーションされた団体の中で惜しくも選考から漏れた中から、同日に開催された当基金理事会の選考により、今年度は「ウイメンズネット・こうべ」に授与することに決定いたしました。

～ ウイメンズネット・こうべ

松村弘子さん ～

草地奨励賞受賞、ありがとうございました。



私たちウイメンズネット・こうべは、女性が生きやすい社会をめざし、女性への支援活動に取り組んできました。15年間活動を続けてこられましたのは個人や団体の多くの方々の支えや励ましがあつたからこそですが、今回草地賢一さんという草の根運動の中心的存在であられた方の名を冠した賞をいただきましたことには、特別な喜びがございます。授賞式では黒田理事長から、いつでも力になりますよという、うれしいお言葉もいただきました。ほんとうにありがとうございました。



2007年度 はぁ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業・募集開始

2007年1月より、兵庫県遊技業協同組合・ラジオ関西・神戸新聞事業社で構成された「はぁ～とふるふぁんど委員会」の2007年度「ひょうごボランティアあしすと」支援事業が始まります。しみん基金・K O B Eはその助成事務等を毎年受託しています。

「ひょうごボランティアあしすと」支援事業の主な概要は以下のとおりです。

支援対象団体

5人以上のグループで活動されている地域の団体
またはボランティア団体

支給された支援金の管理及び事業を遂行できる団体であること

兵庫県内を主たる活動の場とする団体

代表者、事務局等が明確になっている団体

報告書を期日までに提出することができる団体

法人化の有無は不問

支援対象事業

支援の対象となるのは平成19年5月1日から平成20年4月30日までに終了する事業で、具体的な内容は以下のとおりです。

- ・環境の保全や創造に関する事業
- ・自然災害等による被災者支援や被災地復興を含む災害救援に関わる事業
- ・地域の安全、防犯等に関わる事業
- ・青少年の健全育成に関わる事業
- ・その他、公益の目的と認められる事業

支援金額

支給される支援金は、1事業について総事業費の4分の3以内で、最高100万円とします。

申込み方法

- ・必要書類：所定の申請書式5枚（支援金支給申請書、団体概要書、事業計画書、年間活動収支予算書、申請事業収支予算書）
- ・応募要領や申請書式は、兵庫県遊技業協同組合のホームページよりダウンロード可能です。
<http://www.hyoyukyo.or.jp/>
- ・添付書類： 団体事務所の近辺地図（最寄駅から）
団体の活動を紹介する写真、資料、パンフレット、新聞・雑誌の記事等
- ・提出先：しみん基金・K O B E 事務局
（FAXやE-mailでの提出は不可）
- ・申込期間：平成19年1月9日（火）
～2月28日（火） 最終日必着

申請に関するお問い合わせやご相談、申請書式等のご請求は、当基金事務局までお気軽にご連絡ください。

* しみる基金・K O B E への主な寄付方法 *

* 寄付

- ・ **直接寄付**：市民活動支援のための寄付を受け付けています。以下の3種類の区分があります。
 - 一般寄付・・・使途について当基金に一任されて寄付されるもの。
 - 指定寄付・・・金100万円以上の寄付であって、助成先の分野を指定して寄付されるもの。
 - 冠基金・・・金1000万円以上の寄付であって、自己の名称や目的等を附して寄付されるもの。
- ・ **賛助会員**：会員としてしみる基金・K O B E の趣旨に賛同しその活動・事業を支援する。
（個人会員：年間3,000円、法人会員：年間10,000円）

* イベント募金

- ・ **ぼたんの会**：文化を通じて新しい社会貢献（寄付の文化）のスタイルの定着をめざし、2002年秋からNPO / NGOへのファンドレイジングを目的に15の団体で結成された協働プロジェクト。コンサートやパーティーなどを企画・開催し、その収益の一部を市民活動へ寄付するしくみです。当基金は、ぼたんの会実行委員会の事務局を担っています。（P6参照）

* 職域募金

- ・ **あじさい基金**：神戸市役所職員有志でつくられた基金で、1口200円/月の寄付で市民活動を支援しようと2003年に設立されたもの。当基金へ定期的に寄付を頂いています。（P6参照）

* 協働企画型寄付システム

- ・ **リサイクル寄付事業**：2004年度より企業との協働で古着と家電製品・家具の2種類のリサイクル寄付事業に取り組んでいます。いずれも提携するリサイクルショップで引き取られた料金が「リサイクル寄付」として当基金へ寄付されるシステムとなっています。身近なところからの市民活動への寄付ということだけでなく、ごみになるものを減らすという意味もあります。（P6参照）
- ・ **ろうきんNPO寄付システム**：近畿労働金庫が信頼できるNPOをリストアップし、その中から応援したい寄付先を選んで申込みするだけで、普通預金口座を通じて一口100円から自動的に定期寄付がおこなわれる仕組み。当基金もリストアップされています。
- ・ **書籍購入寄付**：著者の協力により、指定の書籍購入による売上の一部が寄付される仕組み。（下記事参照）

＜ 書籍を購入して寄付をしよう！ ＞

著者のみなさんのご協力により、書籍購入時の売上の一部を寄付していただくシステムがあります。今年になって、以下の2冊が新たに加わりましたのでご案内します。いずれも、1冊の売上のうち50円がしみる基金こうべに寄付されます。ぜひこの機会にご一読ください。

『ボランティアが社会を変える ～ 支え合いの知～』

共著：柳田邦男（ノンフィクション作家）
 黒田裕子（阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長、しみる基金・K O B E 理事長）
 大賀重太郎（NPO法人拓人こうべ専務理事）
 村井雅清（被災地NGO協働センター代表、しみる基金・K O B E 副理事長）
 編者：似田貝香門
 （東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授）
 関西看護出版 2006年3月刊行 ¥1,680（内税）

『創造的自治と地域再生』

著者：池田清（下関市立大学経済学部教授）
 日本経済評論社 2006年7月刊行 ¥3,360（内税）

ご注文は、被災地NGO協働センターまでお願いします。お名前、お届け先ご住所、本のタイトルと注文冊数をお知らせください。送料は1冊あたり全国一律210円。代金後払いです。

被災地NGO協働センター

TEL：078-574-0701 FAX：078-574-0702
 e-mail：ngo@pure.ne.jp

皆様のご支援で活動が成り立っています。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ぼたんの会 「1・17 メモリアル・コンサート 竹下景子さん“詩の朗読と音楽の夕べ”」のご案内

大震災から12回目の「1・17」が巡ってきました。今年もぼたんの会実行委員会では、竹下景子さんをお迎えして「1・17 メモリアル・コンサート “詩の朗読と音楽の夕べ”」を下記のとおり開催します。

今年 7 月には、サン・フランシスコで竹下景子さんがこのメモリアル・コンサートで生まれた詩を朗読され多くの共感呼び起こしました。震災を通してのメッセージは、遠くまで強く伝わる力を持っていることの証しのひとつといえるでしょう。

すでに、今年 11 月に詩の募集も終わり、先日、その選考が行なわれました。今回は「マリオネット」によるポルトガルギターの素敵な演奏も楽しみです。是非とも、詩の持つ感動を味わいにお越し下さい。

日時：2007 年 1 月 17 日(水)

開場 18:30 ~ 開演 19:00 ~

会場：神戸新聞松方ホール TEL:078-362-7111

- ・ 竹下景子さん詩の朗読 with 林昌彦さんピアノ演奏
- ・ マリオネット(ポルトガルギターとマンドリンによるアコースティックユニット)演奏

チケット：前売 ¥2,500、当日 ¥3,000 全席自由席

チケットのお申込みは しみん基金・K O B E でも承っています。

< ぼたんの会チャリティ美術展のご報告 >

2006 年 9 月 2 日(土)から 9 月 11 日(火)までギャラリー島田にて、ぼたんの会実行委員会としては初めての試みとなる「チャリティ美術展」を開催しました。このしくみは、作品の出品をアーティストに呼びかけ、実行委員会の各構成団体は鑑賞券を配布し、その鑑賞券を持った顧客が作品を購入した場合、その売上額の 50%を各構成団体へ還元されることになっています。

最終的に全体で 47 作品が売れて売上額は約 180 万円でした。その半額が各構成団体へ還元されました。ご支援・ご協力どうもありがとうございました。



「あじさい基金から」の寄付金贈呈式のご報告

2006 年 10 月 17 日(火)に「あじさい基金」(代表：菅本郁氏)からしみん基金・K O B E への寄付金(350,000 円)の贈呈式が、神戸市役所内の「協働と参画のプラットフォーム」で行なわれました。「あじさい基金」は、市民活動を支援したいという神戸市役所職員有志でつくられた基金で、2003 年に設立され、今回で 2 度目の贈呈式です。温かいお志に心より感謝申し上げます。



< リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法 >

古着：オレンジスリフティ TEL 078-858-7090
〒657-0027 神戸市灘区永手町 3-1-208
オレンジスリフティ 六甲店

- ・ 上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・ 送付の際は、メモにて「リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・ お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませていただいた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家具・家電製品：しみん基金・K O B E 事務局

TEL 078-230-9774

- ・ まずはお電話ください。提携先企業より係員を派遣して品物を確認させていただきます。
- ・ 家電製品につきましては、2002 年以降製造のものしかお取り扱いできません。ご了承ください。
- ・ 再販売できるものが対象ですので、状態によってはご協力いただけない場合がございます。

ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワーク主催

出口正之氏 講演会 in 神戸 『行財政改革の行方 ~NPO・企業に期待されるもの~』

ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワークとは、兵庫県内の市民公益活動に対して助成活動を行っている民間組織間の緩やかなネットワークで、しみる基金・K O B E は、その事務局を担っています。2006年4月発足で、代表は当基金の今田忠 理事兼事務局長（元阪神・淡路コミュニティ基金代表）が務めています。

* * *

2006年11月20日、神戸新聞社にて出口正之氏講演会『行財政改革の行方~NPO・企業に期待されるもの~』をひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワーク（略称：HCFN）主催で開催しました。今回の講演会は、HCFN 参加団体間の共通の背景について情報共有を目的とした研究会の一環として企画したもので、貴重な機会なので一般公開の形で行ないました。

講演会の中で、まず“心の投票”と“政治の投票”というモデルが提示されました。（図1参照）“政治の投票”とは、市民による選挙を通じて選ばれた議員で構成された、議会の決定に基づいて政府が税金を徴収して公共的な財・サービスを供給していくシステムのことです。戦後市民のニーズが多様化していく中、このシステムを通じてそれらの多くを実現しようとして、日本は先進国の中でも財政赤字が突出した国家になりました。また、このシステムでは、「公平」という原則のもと意思決定が遅く、必要なときに必要なものが供給されなかったことを阪神淡路大震災の折に経験しました。一方、いろいろな人々の多様な意思を反映させたNPOなどの出現は、市民や企業などからのボランティアや寄付という形での参加を通して、すみやかに公共的な財・サービスを供給することを可能とし、政治における投票行為と同等以上の効果を実現できることを阪神淡路大震災の折に知りました。そのことを指して“心の投票”と呼び、最近では政府の骨太の方針の中でも“民間が担う公共”と呼んで、その重要性が認識され促進していく方向で行財政改革が進められてきました。



ところが近年、企業の社会的責任（CSR）が声高に言われるようになって、NPO/NGOや市民が企業に求めるコンプライアンスの要求水準が高くなってきたことに、企業はとても困惑しています。一方、企業もNPO/NGOの活動への懐疑的姿勢が目立ってきました。

講演会の最後に、企業とNPOの関係は「**貶めるコンプライアンスより褒めあうフィランソロピー**」が大切であると提起されました。褒めあうしくみを企業とNPOの間で築くことがあの阪神淡路大震災の時には歴史的にできたのですが、それが最近のCSR論議の中で少しずつ崩れつつあります。NPOは企業に対してCSRを求めすぎることなく、また企業は現実的なNPOに寄付を通じてたくさん育てていくことで、政府は余分な税徴収をすることなくかつ社会的なサービスの質を低下させることなく行財政改革をすすめることができる、という関係にあることを指摘して講演が結ばれました。

その後、会場との質疑応答の中では、NPOということばへのトラウマについて、国際会議の場におけるイギリス文化の支配、「まちかどのフィランソロピスト賞」を通じて知られた寄付への動機など、多岐にわたって活発な議論が行われました。



図1

出口正之氏略歴

サントリー文化財団事務局長等を経て、現在、国立民族学博物館総合研究大学院教授。政府税制調査会特別委員。国際NPO・NGO学会会長。阪神・淡路大震災時におけるボランティア活動を紹介した「ボランティア革命」(本間 正明・出口正之著、東洋経済、1995.12.)を世に問うた。また阪神・淡路コミュニティ基金運営委員として被災地のボランティア活動支援にも多大の貢献を行った。

1 1 年目のひとり言

～ 命 ～

間もなく12回目の「あの日」を迎える。私は「あの日」が近づいて来ると必ず書棚にある何冊かの書籍を読み返すことにしている。それは、「あの日」の記憶を風化させない為でもあるのだが、それにも増して、様々な立場の方が、「あの日」から学んだ教訓を再度、心に刻みつけ、「命」の尊さを思い返す為である。

2006年を象徴する「今年の漢字」に「命」が決まったそうである。いじめ自殺、虐待、飲酒運転事故など、相次ぐ痛ましい事件から「一つしかない命の重み、大切さを痛感した」のが理由の一つだそう。確かに最近の事件を見るにつけ、人の命がこうも軽く扱われて良いものかと考えてしまう。たった10年ほど前、私たちは震災により6000余の尊い命を失い、命の重さを心に刻みつけた。更に遡れば、日本という国は60年前に200万人に及ぶ尊い犠牲を払い、第2次世界大戦に敗れ、永久に戦争を放棄するという憲法のもと、平和国家を目指して誰もが頑張ってきたはずなのに、その痛みと命の大切さを忘れてしまったのだろうか。地球上には戦争と貧困に苦しむ人たちが多くいる。平和国家とは戦争を起こさないことだけではなく、人の命を大切に出来る人たちが形づくる国家のことではないのか。震災の修羅場を経験した私たちには、命の重さを語り継ぐ義務があるのだと、読み返した書籍を書棚に戻しながら強く思った。書籍といえば、生きることの尊さを書き続けた神戸生まれの作家、灰谷健次郎氏がお亡くなりになられた。灰谷氏は、しみん基金・K O B E も参加している「ぼたんの会」の講演会でご講演をいただいたことがある。心からご冥福を祈りたい。合掌。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

(2006年4月～2006年11月)

正会員 個人 37名 団体 5名

賛助会員 個人 132名 団体 14名

寄付・募金合計金額 1,820,442円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

被災地 NGO 協働センター、オレンジスリフティ、中島秀男、こうべリサイクルセンター、ぼたんの会実行委員会、山口一史、ギャラリー島田、阿部圭宏、柳田邦男、アートサポートセンター神戸、武田政義、あじさい基金、井上由紀子、高木清、永井幸寿、古賀攻、KCC ライフプランセミナー参加者、神戸復興塾

皆様に、心よりお礼申し上げます。

次号の予告(2007年3月発行予定)

- ・はぁ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業の中間報告
- ・ぼたんの会・今後の予定 など

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
団体会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」

あ と が き

先日、内閣府主催の認定 NPO 法人制度についての研修会に参加した。何回かの改正を経ても未だ 50 弱の団体しか認定を取得していないのだが、お話を聞いて高いハードルと感じたのが、国税当局による数日間の現地調査だ。認定要件を満たしているか確認するためのものだが、それに関連している聞かれるようだ。それに対応できるだけの体力を備えた NPO 法人が一体どれくらいあるのか、50 弱という数字に改めて合点した次第である。(え)